



# にじいろ 虹色

- 今年度の秋田県生涯学習・社会教育重点施策・事業
- オーダーメイド型社会教育主事派遣事業
- 第1回家庭教育支援指導者研修会
- あきたスマートカレッジ・生涯学習の窓

秋田県生涯学習センター（編集：社会教育アドバイザー）

## 今年度の秋田県生涯学習・社会教育！

### 【重点施策】

1. 学校・家庭・地域の連携・協働の推進
2. 豊かな人間性を育む教育活動の充実
3. 多様な学びの場づくりの推進
4. 良質な文化芸術に親しむ機会の充実

### 【事業】

- (1) 学校・家庭・地域連携総合推進事業
- (2) 秋田型教育留学推進事業
- (3) 障害者の生涯学習支援モデル事業
- (4) “あい”で見守る！あんしんネット構築事業
- (5) つながり、広げる子どもの読書応援事業
- (6) ニューノーマルに対応した体験活動構築事業
- (7) 社会教育主事講習運営事業
- (8) 豊かな感性と創造性を育む文化芸術体験活動の推進
- (9) ミュージアム活性化事業
- (10) 教育機関におけるデジタル化推進事業



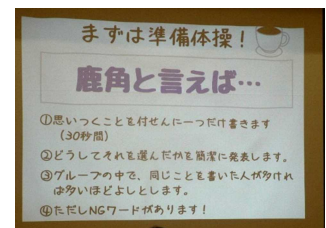
生涯学習課 Web サイトへ↑

## 社会教育

### 【オーダーメイド型社会教育主事派遣事業】

県教育委員会が主催し、秋田県生涯学習センターが所管するオーダーメイド型社会教育主事派遣事業は、4年目を迎え、今年度は鹿角市・北秋田市・藤里町・三種町・大仙市・八峰町・小坂町・県立ゆり支援学校を対象に実施することとなりました。

今年度最初は、5月17日に鹿角市のコモッセを会場とする「第1回鹿角市地域学校協働本部会議」内の研修会でした。研修では、「鹿角の課題って何だ？ 私たちは子どもたちに何をすべきか」をテーマに冠した熟議が行われ、生涯学習センター 柏木 睦 副主幹(兼)学習事業班長がファシリテーターを務めました。柏木班長は、導入で、鹿角市のまちづくりアンケートを引き合いに、中高生の回答と大人の市民の回答を比較し、傾向や差異の分析を提示することで、参加者全員による問題意識の共有を第一に図りました。続くアイスブレイクを通して、会場には和やかな雰囲気が形成され、熟議にふさわしい場が整えられました。この日の参加者は約40名で、地域学校協働活動に携わる推進員、各校の地域連携担当教員、行政関係者が主でしたが、様々な立場や見方から、地域としての鹿角や将来を担う子どもたちへの熱い思いが、言葉や付箋を通して交わされました。この日の熟議のまとめとして、「郷土の価値」や「鹿角に対する自信と誇り」を子どもたちに継承したい、この実現には市民で「交流」を深め「オール鹿角」で臨むことや「大人の心の余裕」も必要、といったテーマに対する“すべきこと”が浮かび上がりました。また、柏木班長からは、地域学校協働活動には、一人一人が地域のことを自分ごととして考える当事者意識が必要であり、これが地域を動かす力になることが伝えられ、今回の熟議は幕を閉じました。



本県の「オーダーメイド型社会教育主事派遣事業」は、文部科学省国立教育政策研究所の調査研究報告書に注目されるべき事例として紹介されています。

## 家庭教育

### 【家庭教育支援指導者等研修】

5月25日に62名が出席して、第1回家庭教育支援指導者等研修が行われました。これは、各市町村において家庭教育支援チームの中核となるリーダーと、地域人材として活動するサポーターを養成する年4回の研修です。今回は、「子ども・保護者理解」を研修の観点に掲げ、実施されました。

午前は、まず、秋田県生涯学習センター 菊地 智 社会教育主事が、現在の本県における家庭教育の状況をふまえ、地域の力で家庭を支える同チームの必要性を説明し、支援チームには「キャッチする」「きく」「つなぐ」という3つの姿勢が不可欠であることや支援チームは子ども・保護者の「味方」としての第三者の存在でありたいこと、地域学校協働活動に参画しての支援のあり方等について述べました。続いて、「公民館、学校、保健・福祉との連携による家庭教育支援」を協議題に、参加者によるグループ協議が行われました。参加者からは、「異なる立場の方々と様々な意見を交換することで、お互いの取組状況について知るとともに、新たな視点に気づくことができた」等の声が寄せられ、今後の活動における展望が得られた貴重な場となっていたようです。

午後は、秋田大学教育文化学部 山名 裕子 教授から、「幼児期に必要な経験と小学校への接続」と題し御講話いただきました。この中で、子どもの「発達」は結果として身に付くことであり「目的」や「成長課題」として捉えるのは適切でないこと、子どもとのかかわりにおいて「行為の要求」を受け入れることが難しくても「自我の要求」は受け止めるべきであること、子どもは幼児期に遊びを通して学ぶもので、行きつ戻りつしながら必要な経験を獲得していくもの等、家庭教育を支援するにあたり踏まえるべき子ども理解における具体的知見を提示くださいました。

本研修の実施レポートへ→



## 生涯学習

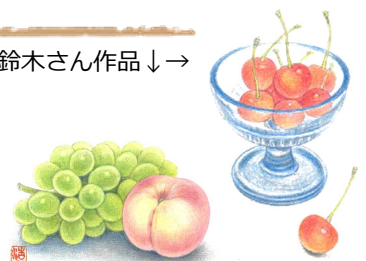
### 【あきたスマートカレッジ】

今年度も、県民向けの総合的な生涯学習講座「あきたスマートカレッジ」（会場：秋田県生涯学習センター）が、6月4日に開講しました。この日は、講座に先立ち、副学長を務める 倉田 寛行 秋田県生涯学習センター所長が開講宣言を行いました。宣言中、「各講座が学びの場として双方向性のある楽しい講座になることを期待するとともに、皆さんの豊かな心が持続可能な地域づくりにつながるようお祈りしたい」と述べました。この後、今年度最初の2講座「北条常久特別企画講座」と「新たな学び講座・クリエイティブ編」が開催されました。県民の皆様の地域理解や社会参加を促進する学びの機会につながれば幸いです。



「色鉛筆アトリエ歩」  
代表  
鈴木 浩子さん

鈴木さん作品↓→



本欄では、生涯学習の推進をはかるため、生涯学習活動に取り組み輝く方をインタビューで紹介いたします。

#### ①色鉛筆アートに出会ったきっかけについて教えてください。

鈴木：もともと、日本画を描く中でモチーフのスケッチに色鉛筆を使用していました。子育て中は、絵の具を扱うことが大変になり、代わりに色鉛筆を使ったところ、思うように表現がしやすく身近な道具であった色鉛筆の魅力に気づいたのがきっかけです。

#### ②鈴木さんが考える色鉛筆アートの魅力について教えてください。

鈴木：塗り重ねるほどに色の深み、立体感、遠近感が増していくのが色鉛筆アートで、いかに奥行きを出して描くかがポイントです。私は、目の前にあるものを描きたいと思っており、立体感や遠近感を求めていくことの楽しさが色鉛筆アートの魅力だと考えています。また、本物に近い方が感動や共感を呼びやすいです。

#### ③創作活動という生涯学習を続けてこられた中で、どのようなものが得られましたか？

鈴木：教室を開いており、皆さんと一緒に考え、作品を描いていくうちに、自分一人では到達できなかった新たな表現がいくつも見つかることができました。こうした経験から、絵画制作においては新たな描き方や世界観、創作の可能性を得ましたし、生涯においては人との交わりの尊さに気づけたことが得られたものだと思います。

#### ④鈴木さんにとって、生涯学習とはどのような意義を持ちますか？

鈴木：モチーフを見つめることで、何気ない事物や場面を見る目が変わります。創作活動を通して新たな視点が生まれ、日常が発見の連続で楽しさに彩られます。これも一つの意義と考えています。